

はじめに ～北海道グローバル戦略について～

1 背景

戦略策定時（2017）

急速に進展するグローバル化への対応

戦略改訂時（2021）

本道を取り巻く国際情勢の変化
(感染症の拡大、経済連携の加速など)

戦略改訂時（2023）

これまでの想定を超える大きな国際情勢の変化
(ロシアによるウクライナ侵略など)

- ・ 社会変革の動きや、刻一刻と変化する国際情勢をしっかりと見極めながら、「世界の中の北海道」として、的確かつ迅速な対応が重要
- ・ 北海道がめざす姿を道民の皆様と共有しながら、情勢変化に対応した戦略的・効果的な国際関連施策を展開

2 推進期間

2017年から北海道総合計画の終了年である2025(令和7)年度まで

3 本戦略の構成

- (1) 戦略の構成：「Ⅰ 現状」、「Ⅱ 展開方向(めざす姿、3つの視点など)」、「Ⅲ 施策の推進」
- (2) SDGs達成への貢献：SDGsの理念と合致する施策の推進を通じ、世界共通の課題解決へ貢献

『戦略改訂の経緯』

- ・ コロナ・パンデミック(世界的流行)に伴う社会・経済情勢の変化やその対応方向を踏まえ、改訂(2021)
- ・ 刻一刻と変化する国際情勢の変化への機動的な対応について、改めて見直しを実施(2023)

I 現状

1 北海道を取り巻く世界情勢

- (1) 世界的な市場動向
→ウクライナ情勢は直接の当事国以外にも影響
世界のインフレ率も上昇
- (2) 自由貿易、経済統合の進展
→経済統合の動きが加速
- (3) 多様なリスクの顕在化、不透明感の増大
→これまでの想定を超える大きな国際情勢の変化

- 今後もグローバル化が進展する中、
情勢変化で生じる多様なリスクや
新たなビジネス等の機会への対応が必要
- ・ 国際情勢は一層複雑化、不透明化
 - ・ 市場獲得競争、人材の流動化の拡大
 - ・ デジタル化の急速な普及や、グリーン社会の実現など、社会変革に向けた動きが加速

2 北海道の現状と、今、求められているもの

【北海道と世界のつながり】

- 5年間で
- ・ 訪日外国人来道者数 → 2倍(2018/2014)
 - ・ 道内港分の食品輸出額 → 1.3倍(2022/2018)
 - ・ 道内空港国際線旅客数 → 2倍(2018/2014)
 - ・ 道内在住外国人 → 1.3倍(2020/2016)

新型コロナウイルス感染症の拡大による大きな影響

ロシアによるウクライナ侵略など

世界の潮流を見極め、
再び、本道の活性化へ

【今、北海道に求められているもの】

- ・ 地域の産業力を更に高め、世界の成長力や経験・ノウハウなどを着実に取り込み、地域経済の活性化を促進
- ・ 世界が身近な存在となる中、人材交流や多様な文化の共存に向けた環境づくりの推進
- ・ 感染症やテロ、政情不安に加え、ロシアによるウクライナ侵略など、国際情勢の大きな変化への的確な対応
- ・ 世界的な脱炭素化やデジタル化の動きなど、変化で生じる新たなビジネス等の機会の創出

あらゆる取組を進める上で
グローバルな視点が
不可欠

3 世界に通用する北海道の「ちから」

本道には、豊富な食や優れた自然環境をはじめとする、本道ならではの世界トップレベルの「ちから」が数多く存在

II 展開方向

1 北海道のめざす姿

めざす姿

世界をより身近に、世界を舞台に活躍



2 3つの視点と展開方向

「めざす姿」の実現に向けて、「世界に売り込む」「世界とつながる」「世界と向き合う」の3つの視点に立ち、グローバル化に対応した取組をデジタル化の進展や脱炭素化といった社会経済情勢の変化に的確に対応しつつ、ターゲットを明確化・重点化しながら、機動的かつ柔軟に推進

3 展開方向

視点① 世界に売り込む

対応方向

～展開方向Ⅰ～

北海道の魅力や強みを活かした海外展開

(1) 北海道ブランドの確立と戦略的活用

- ・潜在力や競争力を有する食や自然、観光などの分野における価値の更なる磨き上げ
- ・ターゲットの明確化・重点化による北海道ブランドの海外展開
- ・半導体やデータセンターなどデジタル関連産業の誘致
- ・安全・安心に配慮した、国際的イベントや投資等の誘致
- ・社会経済情勢、現地ニーズ等を踏まえ、デジタル技術等を活用した市場・需要開拓
- ・脱炭素化に向けた取組など、人々の行動変容や価値観の変化への対応

(2) グローバル・ネットワークの強化

- ・デジタル技術等を活用した新たな交流スタイルの確立
- ・グローバル・リスクを見据えた現地支援体制の基盤強化

視点② 世界とつながる

対応方向

～展開方向Ⅱ～

世界と北海道をつなぐ環境づくり

(1) 多文化共生社会の形成

- ・生活環境や相談体制の充実等、地域社会の一員としての在住外国人の受入環境整備

(2) 人材・技術を活用した交流・協力の促進

- ・外国人に選ばれる本道の受入環境づくりの支援
- ・国際社会に貢献し、本道の地域活性化にも資するグローバル人材の育成
- ・海外との持続可能な交流の推進
- ・オリンピックなどを契機とした交流主体の多様化
- ・気候変動問題など世界共通の課題解決への貢献に向けた海外との交流の推進

(3) 国際交通網の拡大・物流機能の強化

- ・リスク分散と新たな需要獲得に向けた交通・物流ネットワークの充実

視点③ 世界と向き合う

対応方向

～展開方向Ⅲ～

世界情勢の変化への機動的で柔軟な対応

(1) 世界を視野に入れた力強い地域経済の確立

- ・潜在力や競争力を有する食や自然、観光などの分野における価値の更なる磨き上げ
- ・半導体やデータセンターなどデジタル関連産業の振興による本道経済の活性化
- ・未来を見据えた新たな社会経済の変化への対応強化
- ・SDGsや脱炭素化など世界共通の課題解決に向けた取組と経済的な価値の創造
- ・本道の農林水産業の持続的な発展などグローバル・リスクへの対応強化に向けた施策の展開

(2) 海外展開・交流におけるリスクマネジメント

- ・国際情勢の大きな変化に迅速に対応するため、有識者や関係団体等との迅速な情報共有の仕組みを構築（有識者会議の常設化）
- ・リスク対応に関する知見やスキルの向上を図る施策を実施
- ・コロナ禍において、世界が共有した経験・ノウハウを活かし、今後生じ得る災害や感染症、国際情勢などのグローバル・リスクに弾力的に対応できる強靱で柔軟な海外展開・交流を推進

* 各展開方向ごとに「社会・経済情勢の変化」などを踏まえた「対応方向」を策定

* 「取組イメージ」については具体取組例を明示し、本編に記載

4 北海道と世界各地との交流～各国・地域の展開内容～

各国・地域の社会・経済情勢や北海道との交流状況などを考慮しつつ、ターゲットとなる国や地域における重点的な取組を明示し、海外との交流を展開

各国・地域の展開内容

各分野別（食・観光・交通・投資・人材・技術交流）の重点

III 施策の推進

・本戦略に基づき、国際関連施策を総合的に推進

～庁内に各部横断的な連携会議等を設置し、施策を相互に連携させながら、効果的・効率的に事業を実施

* 各分野における具体的な施策の推進管理は、個別に策定している特定分野別計画等と連携して実施

* 庁内横断的に進捗や課題を共有し、施策のPDCAなど、施策の見直しを実施